

令和2年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
--------	----------------------

重点目標	1 生徒個々に対応した基礎学習を充実させ、学習習慣の定着を図り、大学進学に向けた発展的な学習を組織的に取り組む。 2 キャリア教育・進路指導を学年や進路指導部を主体とした組織的な取組により、生徒の進路意識を向上させる。 3 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」による授業で、能動的な学びを身につけさせる。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、開かれた学校づくりを進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価（月 日 現 在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<p>・新型コロナウイルスによる影響で、学習習慣の欠如と学習の遅れが心配される。家庭でもICTを活用した学習ができるように多角的にサポートすることが課題である。また中学校を不登校だった生徒も多く在籍しており、学びなおしを含めた基礎学力の向上が必要である。</p>	<p>・生徒個々への学習指導体制の充実と学校生活に自信や目標を持った生徒の育成を目指す。</p>	<p>①ICTを利用して授業を支援する動画を作成し、YouTubeにアップする。 ②ティームティーチングの効率的な活用 ③学習サポーターの補習への活用 ④多様な文化を持つ生徒への対応のための推進員を活用する。</p>	<p>①各教科1本以上授業動画を作成する。 ②各授業に於いて個々に応じた工夫を実践する。 ③基礎学力定着テストによる定着度の検証をする。 ④多文化共生推進員との連携を強化する。</p>		
2	<p>・生徒の進路に対する意識が低く、将来の夢ややりたいことを見つけられない状況にある。生徒の進学・就職支援を充実し進路意識の向上を図り、将来の夢や目標を持たせ、進路実現につなげることが今後の課題である。</p>	<p>・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的におこない、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。</p>	<p>①かわぐちサポステとの連携により、進路講演会・SST・社会体験事業を昨年程度実施する。 ②外部教育力を活用したキャリア教育の推進。 ③自発的な取組ができるよう、「浦定チャレンジ」を推進。</p>	<p>①80%以上の生徒が「コミュニケーション能力が上がった」と回答。 ②生徒の進路決定率とアンケートの結果。 ③80%以上の生徒が自発的に取組を行えたと回答。</p>		
3	<p>・基礎学力の定着と、身に付けた学力をどのように活用するのかが本校の課題である。生徒個々の学力差も大きく、理解の深まり方も差が大きい。そのため、さまざまな学習活動の工夫により多様な生徒への対応が望まれる現状にある。</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びによる知識の定着を達成でき、基礎学力や発展的学習が深まった生徒の育成を目指す。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」による授業の実施。 ②未来を拓く「学び」プロジェクトによる、他校及び中学校教員への授業公開の実施。 ③他校定時制との情報交換による、授業力の向上。</p>	<p>①全教員が授業において、「主体的・対話的で深い学び」を各学期に1回以上実施。 ②公開授業により、他校教員及び中学校教員の参加者を増やす。 ③他校定時制教員との情報交換交流を1回以上実施。</p>		
4	<p>・保護者会への参加希望は多いが、実際の参加率はその半分程度である。今後保護者が参加しやすい時期や内容を検討していく工夫が必要である。また、中学校との連携を維持・強化することが課題である。</p>	<p>・学校HPを活用し、情報発信を積極的にを行い、生徒保護者や中学校との連携体制を構築する。</p>	<p>①公開行事等において、保護者の参加を促し、日常の教育活動の理解への強化。 ②給食指導等による「食育」を充実、食の大切さ、命の重さの指導。 ③保護者対象のアンケートを実施。 ④学校HPの定期的な更新と内容の改善。</p>	<p>①保護者対象の講演会等に前年度を上回る保護者が参加 ②給食喫食率と残食を最小限とし、給食満足度を70%とする。 ③保護者会に「参加した」と「参加したい」の検証。 ④更新回数目標（50回）</p>		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

